

2025 年度浦安キャンパス
大学院学生による
授業評価アンケート実施結果

浦安キャンパス研究科連絡・調整会議

1 アンケートの概要

(1) 目的

浦安キャンパス大学院のファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント活動の一環として、本学の教育の質的改善に役立てることを目的とし、大学院学生による授業評価アンケートを実施した。

(2) 実施期間

2025年6月25日（水）9：00～7月8日（火）23：59

(3) 実施対象授業科目等

アンケート実施期間中に開講している専任教員が大学院で担当する授業科目(特別演習、特別研究及び履修者2名以下の科目は除く。)のうち、専任教員1人あたり履修登録者数が最多の1科目

なお、1つの授業科目を複数教員で担当している場合は、当該授業科目の代表教員を授業担当教員とした。

(4) 実施方法

ア アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答した。

イ 教員は、アンケート実施期間中の該当授業においてアンケート回答の時間を設けることができることとした。

(5) 集計結果分析及び授業改善策等について

授業担当教員はアンケート集計値をWebポータルシステムから確認し、集計結果分析及び授業改善策(現状の説明・中間フィードバック・課題及び改善点・学生向けコメント)を浦安キャンパス研究科連絡・調整会議委員長に提出した。

※ 授業ごとの集計結果分析及び学生向けコメントについては「2 集計結果分析(P.5～20)」のとおり。

(6) アンケート項目

1	あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
2	あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか
	3時間以上 / 2時間以上3時間未満 / 1時間以上2時間未満 / 30分以上1時間未満 / 30分未満 / ほとんどしなかった
3	教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない

4	教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
5	授業の内容をよく理解できましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
6	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
7	この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか
	強くそう思う / そう思う / どちらともいえない / そうは思わない / 全くそうは思わない
8	この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか
	満足 / やや満足 / どちらともいえない / やや不満 / 不満
9	この授業はあなたの大学院入学の目標達成に関してどんな意味を持ちましたか (自由記述)。
10	この授業について改善すべきと考えられる点があったら書いてください (自由記述)。

(7) アンケート実施科目及び回答者数

実施対象科目数：23 科目

回答者数：118 名〔対象者数（履修者数）147 名〕

研究科	科目名称	氏名	対象者数	回答者数
応用言語学研究科	応用言語学研究法特論	嶋田 珠巳	12	11
応用言語学研究科	応用言語学特論	中川 仁	12	12
応用言語学研究科	日本語教育方法特論	田川 麻央	6	6
応用言語学研究科	日本語教育教材特論	片桐 史尚	7	7
応用言語学研究科	日本語教育学特論	木山 三佳	8	8
応用言語学研究科	音声学・音韻論特論	鍛冶 広真	3	2
応用言語学研究科	第2言語習得特論	ケイコ ナカムラ	5	4
応用言語学研究科	日本語学特論	佐々木文彦	7	7
応用言語学研究科	日・中比較文学特論	河村 昌子	6	4
応用言語学研究科	中国古代思想特論	中嶋 諒	3	3
応用言語学研究科	翻訳技法特論	神崎 龍志	4	3
経済学研究科	ミクロ経済学特論	廣部 恒忠	8	5
経済学研究科	データサイエンス特論	高橋 義明	3	1
経済学研究科	経済政策特論	宮崎 礼二	3	1
経済学研究科	研究・論文技法演習	影山 純二	8	3
不動産学研究科	不動産研究方法論	斎藤 千尋	10	8
不動産学研究科	不動産数理の基礎演習	表 明榮	6	5
不動産学研究科	不動産企画・経営特論	中城 康彦	10	7

研究科	科目名称	氏名	対象者数	回答者数
不動産学研究科	不動産公法特論	兼重 賢太郎	6	4
不動産学研究科	建築計画特論	藤木 亮介	7	7
不動産学研究科	不動産取引法特論	浜島 裕美	4	2
不動産学研究科	都市空間マネジメント特論	前島 彩子	5	4
不動産学研究科	不動産会計特論	山本 卓	4	4
合 計			147	118

2 集計結果分析

(1) 応用言語学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	73
回答者数(のべ)	67
回答率	91.8%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	4		6.0%		
2時間以上3時間未満	21		31.3%		
1時間以上2時間未満	28		41.8%		
30分以上1時間未満	8		11.9%		
30分未満	6		9.0%		
ほとんどしなかった	0		0.0%		67
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	2		3.0%		
2時間以上3時間未満	14		20.9%		
1時間以上2時間未満	15		22.4%		
30分以上1時間未満	24		35.8%		
30分未満	12		17.9%		
ほとんどしなかった	0		0.0%		67
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか					
強くそう思う	48		71.6%		
そう思う	16		23.9%		
どちらともいえない	2		3.0%		
そうは思わない	1		1.5%		
全くそうは思わない	0		0.0%		67
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか					
強くそう思う	50		74.6%		
そう思う	16		23.9%		
どちらともいえない	1		1.5%		
そうは思わない	0		0.0%		
全くそうは思わない	0		0.0%		67

(5) 授業の内容をよく理解できましたか			
強くそう思う	48		72.7%
そう思う	16		24.2%
どちらともいえない	1		1.5%
そうは思わない	1		1.5%
全くそうは思わない	0		0.0%
			66
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか			
強くそう思う	56		83.6%
そう思う	8		11.9%
どちらともいえない	3		4.5%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			67
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか			
強くそう思う	52		77.6%
そう思う	13		19.4%
どちらともいえない	2		3.0%
そうは思わない	0		0.0%
全くそうは思わない	0		0.0%
			67
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか			
満足	59		88.1%
やや満足	6		9.0%
どちらともいえない	2		3.0%
やや不満	0		0.0%
不満	0		0.0%
			67

【研究科の総評】

大学院における授業評価アンケートは、本研究科の必修扱いにあたる「応用言語学研究法特論」及び「応用言語学特論」の科目を主軸とし、それ以外の授業評価アンケート対象科目は日本語教育方法特論、日本語教育教材特論、日本語教育学特論、音声学・音韻論特論、第2言語習得特論、翻訳技法特論、日本語学特論、日・中比較文学特論、中国古代思想特論であり、その状況について把握した。

本研究科では、基礎言語学を学ぶことにより、それぞれの専門分野における研究方法との関連性と連動性という視点から、各分野における基礎的な項目を網羅する形で学ぶことを研究の視座とし、それを着眼点としている。そして論理的な思考回路をもつことにより、それぞれの専門的な研究へと繋げていくということを主眼とし、文献研究、実証的な研究へと導いている。これらの学びは、研究を進めていく上で必要不可欠なことであり、研究の根幹をなすべきことがらであることを、院生諸君には、再度、認識していただきたい。

これらを踏まえて、以下のようにアンケート調査の結果をもとに見解を加える。

まずアンケート調査をもとに、院生諸君が、授業の予習にかかる時間は、1時間から2時間ということになっていることから、一科目にかかる時間はかなり短いということが理解できた。また復習についても、30分から1時間ということで、こちらもかなり短いという印象を受けた。履修上において、他の科目との調整を図ったとしても、適切な時間とは言えない。この予習及び復習にかかる適切な時間配分などは、研究科として時間の確保など周知していく。また指導教員からも、単位の修得状況、研究に対する時間的配分の考慮、自らが研究に必要とされる時間など、その授業への取り組みや方策なども示唆していく。

担当教員の授業については、その取り組みに関して、時間をかけて授業を準備し、研究へと導くことを含め、授業を組み立てていることから、その授業の説明についても、きちんと提示していることが十分に理解できる。そして授業についても到達目標も、授業のなかから研究の視座を見出していく方策も打ち立てている。(ただそれについて、そぐわない意見も少数ではあるが、回答されているので、その点については留意する必要性を感じるところである。)

院生との授業形態は少数であるため、専門とする基礎的な事項を含め、各分野における論文の紹介、先行研究の整理の仕方、最新といわれる研究動向への示唆も含め、授業のなかで、それをより良い方向性として導き、論文を作成させるための力を涵養している。それは教員の授業に対する熱意であり、研究をしていくための姿勢でもある。(教員も研究をしている姿勢を院生諸君に提示していることを意味する。)

院生からの質問に対することがらについては、的確も指導を含め、課題への解決策を提示した。そして授業を受けて、院生の研究への取り組みが、また意欲が増したという点についても、教員の研究への助言、研究方法の仕方、その研究方法への導きが的確であり、各研究分野に援用できる方策を示すことができている。

それぞれの分野において、授業の満足度についても、教員は十分に授業及び研究に対する姿勢を示していることがうかがえる。研究には時間を要するものであり、各分野においての専門家である教員が、院生の研究分野を把握し、適切な助言と的確な研究への導きを示唆している。

アンケートのなかで、どちらともいえないという意見については、院生の研究に対する悩みやはっきりしていない点、教員の話し方、研究の姿勢に慣れていないということを意味するものかもしれないということをつけ加えておく。またやや不満という意見についても、同等の意見であろうと思われる。これらについては、後期の授業のところで留意する点であると考え。

現状として、本研究科ではアンケート調査の結果をきちんと把握していく。

応用言語学研究科長 中川 仁

【学生向けコメント】

応用言語学研究方法特論
修士論文を書くこと、それもきちんと学問的な水準を満たすものを、しっかりと自分の調査と考察に基づいておこなうことは容易ではありません。授業では主体的に自分から吸収する姿勢でいることも重要。そしてその姿勢は、ふだんのあなたの修士論文の取り組み方に連続しています。ですから、毎週会えば、なんとなくわかることがあります。何人か確実に伸びている人はいますよ。まだの人はいつでもはじめてみましょう。すぐに時間はすぎてしまいますからね。みなさんが、それぞれのテーマで、自分の設定した課題で、しっかりと取り組んでいかれることを願っています。
応用言語学特論
学生には自由な発想のもと、研究を進めていただきたいと思っています。とくに「ことば」と「周辺の学問領域」との関係を考えながら、先行研究の在り方と文献に対して忠実に向き合うことを実行し、論文執筆を進めていただきたいと考えます。
日本語教育方法特論
これまででてきた参考文献を積極的に読んで日本語教育に関する知識を自主的に増やすことが大切だと思います。
日本語教育教材特論
皆さん、欠席もせずによく通ってくれました。 その積極的な姿勢に促され、教員の私はノリにノって授業を展開できました。
日本語教育学特論
後学期には研究論文を読んで行きます。引き続き、活発な議論を期待します。
音声学・音韻論特論
IPA を理解し発音を身につけておくことは、音声学、音韻論に関わる研究をするための基盤となる能力です。時間がかかるかもしれませんが、引き続き発音の練習をしていきましょう。
第2言語習得特論
Thank you students, for being such an active class. I am enjoying our discussions very much and am learning so much for you. Let's keep up the good work in the second semester, too, and explore many different topics pertaining to second language learning.

【学生向けコメント】

日本語学特論
学生の皆さんから提案されるトピックについて議論を深める形式なので、積極的に問題提起をし、深く考えた上でディスカッションをしていきましょう。 今学期はみなさんからたくさんの質問が出て、問題意識が深まったと思います。
日・中比較文学特論
興味を持って受講してくださりありがとうございます。
中国古代思想特論
後期もよろしく願いいたします。
翻訳技法特論
前学期を通して、よく頑張ってきてくれました。 すでに翻訳能力の進歩を実感してくれているとしたら、たいへん嬉しいことです。

(2) 経済学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	22
回答者数(のべ)	10
回答率	45.5%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか			
3時間以上	3	3時間以上	30.0%
2時間以上3時間未満	5	2時間以上3時間未満	50.0%
1時間以上2時間未満	2	1時間以上2時間未満	20.0%
30分以上1時間未満	0	30分以上1時間未満	0.0%
30分未満	0	30分未満	0.0%
ほとんどしなかった	0	ほとんどしなかった	0.0%
			10
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか			
3時間以上	0	3時間以上	0.0%
2時間以上3時間未満	6	2時間以上3時間未満	60.0%
1時間以上2時間未満	0	1時間以上2時間未満	0.0%
30分以上1時間未満	2	30分以上1時間未満	20.0%
30分未満	0	30分未満	0.0%
ほとんどしなかった	2	ほとんどしなかった	20.0%
			10
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか			
強くそう思う	6	強くそう思う	60.0%
そう思う	4	そう思う	40.0%
どちらともいえない	0	どちらともいえない	0.0%
そうは思わない	0	そうは思わない	0.0%
全くそうは思わない	0	全くそうは思わない	0.0%
			10
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか			
強くそう思う	4	強くそう思う	40.0%
そう思う	6	そう思う	60.0%
どちらともいえない	0	どちらともいえない	0.0%
そうは思わない	0	そうは思わない	0.0%
全くそうは思わない	0	全くそうは思わない	0.0%
			10

(5) 授業の内容をよく理解できましたか				
強くそう思う	3	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%</p> <p>強くそう思う 33.3%</p> <p>そう思う 66.7%</p> <p>どちらともいえない 0.0%</p> <p>そうは思わない 0.0%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	33.3%	
そう思う	6		66.7%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	9
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか				
強くそう思う	5	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%</p> <p>強くそう思う 50.0%</p> <p>そう思う 50.0%</p> <p>どちらともいえない 0.0%</p> <p>そうは思わない 0.0%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	50.0%	
そう思う	5		50.0%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	10
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増えましたか				
強くそう思う	4	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%</p> <p>強くそう思う 40.0%</p> <p>そう思う 60.0%</p> <p>どちらともいえない 0.0%</p> <p>そうは思わない 0.0%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	40.0%	
そう思う	6		60.0%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	10
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか				
満足	7	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>満足 70.0%</p> <p>やや満足 30.0%</p> <p>どちらともいえない 0.0%</p> <p>やや不満 0.0%</p> <p>不満 0.0%</p>	70.0%	
やや満足	3		30.0%	
どちらともいえない	0		0.0%	
やや不満	0		0.0%	
不満	0		0.0%	10

【研究科からの総評】

今回も web ポータルによる授業評価アンケートであったが、回答率は 45.5%と昨年度の 92.3%と比べ、約半分に留まった。学生（院生）数が減少したことに加え、アンケートに関する周知が極めて不十分であったためと思われる。これを率直に反省材料として、次回は回答率の向上に努めたい。

しかし、今回のアンケートの回答結果からも、学生（院生）と教員との信頼関係は良好であるとの印象を持った。

まず授業外研究（学修）時間については、これも前回とは異なり、予習では 2 時間以上 3 時間未満が 50.0%と最も多く、次いで 3 時間以上が 30.0%、1 時間以上 2 時間未満が 20.0%で、この 3 項目だけで 100%に達する。過去のアンケートでは、30 分以上 1 時間未満ないしは 30 分未満という回答も少なからず見られたが、今回は両者ともに 0.0%であった。これを見る限りでは、学生（院生）の多くが予習に多くの時間を割いていることがわかる。しかし、復習時間については、2 時間以上 3 時間未満が 60.0%いた一方、30 分以上 1 時間未満が 20.0%、ほとんどしなかった者も 20.0%おり、研究を主たる目的とする学生（院生）であることを考慮すると、決して好ましい傾向ではない。改善が求められる。

次に、教員の授業に関する項目では、「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると、今回、評価対象となったすべての科目で 100%に達する。特に授業の満足度については、「満足」が 70.0%と高く、アンケートに回答した全ての学生（院生）が自身の履修・受講する授業科目について概ね満足しているという評価結果であり、大変よかったと感じている。全体として見ても、授業を受講することで、研究への意欲が増進したことはまず間違いのないといえる。総じて教員の意欲や熱意が感じられたという回答がほとんどで、この結果は平素の大学院授業担当教員の努力の結果と思われる。

以上、回答率は低かったものの、調査対象となった授業科目は多くの学生（院生）から良好な評価を受けているとの判断が可能であり、これを今後も継続する努力が一層、望まれると思料する。

今後は研究科の学生（院生）を 1 人でも多く増やすことに全力を傾けるとともに、入学した学生（院生）が高水準の修士論文を作成できるように、研究指導体制を強化し、また、研究環境を充実させるべく教員が一体となって努力している。さらに、コロナ禍の経験を活かして、manaba や Zoom も併用しつつ、いわゆるハイブリット型の授業や演習も行われ、研究科の教育の質を高める取り組みも行われている状況である。

経済学研究科長 下田 直樹

【学生向けコメント】

ミクロ経済学特論
履修上の注意点など、今後の学修の参考になれば幸いです。 いつも熱心に勉学を進める皆さんの姿に感心しています。これから論文執筆に向かいますが、果敢に挑戦する気持ちを忘れずに研究を進めてください。
データサイエンス特論
アンケートの回答ありがとうございました。引き続き興味が湧く内容で講義を進めていければと考えています。
経済政策特論
しっかりと文献を読み、正確な内容理解をすること。また、表面上の理解にとどまらずに、文章が何を意味しているのか、論理的かつ構造的に把握するように努めてほしい。
研究・論文技法演習
半期、お疲れ様でした。引き続き頑張ってください。

(3) 不動産学研究科

【集計結果】

対象者数(のべ)	52
回答者数(のべ)	41
回答率	78.8%

(1) あなたはこの授業1回につき、予習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	0	0%	0.0%	0.0%	
2時間以上3時間未満	0	0%	0.0%	0.0%	
1時間以上2時間未満	12	29.3%	29.3%	29.3%	
30分以上1時間未満	18	43.9%	43.9%	43.9%	
30分未満	7	17.1%	17.1%	17.1%	
ほとんどしなかった	4	9.8%	9.8%	9.8%	41
(2) あなたはこの授業1回につき、復習に平均何時間取り組みましたか					
3時間以上	0	0%	0.0%	0.0%	
2時間以上3時間未満	1	2.5%	2.5%	2.5%	
1時間以上2時間未満	12	30.0%	30.0%	30.0%	
30分以上1時間未満	14	35.0%	35.0%	35.0%	
30分未満	7	17.5%	17.5%	17.5%	
ほとんどしなかった	6	15.0%	15.0%	15.0%	40
(3) 教員はこの授業の目的と目標をきちんと説明しましたか					
強くそう思う	15	36.6%	36.6%	36.6%	
そう思う	26	63.4%	63.4%	63.4%	
どちらともいえない	0	0.0%	0.0%	0.0%	
そうは思わない	0	0.0%	0.0%	0.0%	
全くそうは思わない	0	0.0%	0.0%	0.0%	41
(4) 教員の説明は分かりやすく、授業の進み具合は適切でしたか					
強くそう思う	15	36.6%	36.6%	36.6%	
そう思う	19	46.3%	46.3%	46.3%	
どちらともいえない	5	12.2%	12.2%	12.2%	
そうは思わない	1	2.4%	2.4%	2.4%	
全くそうは思わない	1	2.4%	2.4%	2.4%	41

(5) 授業の内容をよく理解できましたか				
強くそう思う	13	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50%</p> <p>強くそう思う 31.7%</p> <p>そう思う 43.9%</p> <p>どちらともいえない 19.5%</p> <p>そうは思わない 4.9%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	31.7%	
そう思う	18		43.9%	
どちらともいえない	8		19.5%	
そうは思わない	2		4.9%	
全くそうは思わない	0		0.0%	41
(6) 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか				
強くそう思う	17	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%</p> <p>強くそう思う 41.5%</p> <p>そう思う 56.1%</p> <p>どちらともいえない 0.0%</p> <p>そうは思わない 2.4%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	41.5%	
そう思う	23		56.1%	
どちらともいえない	0		0.0%	
そうは思わない	1		2.4%	
全くそうは思わない	0		0.0%	41
(7) この授業を受けたことで研究に対する意欲が増しましたか				
強くそう思う	13	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%</p> <p>強くそう思う 31.7%</p> <p>そう思う 58.5%</p> <p>どちらともいえない 9.8%</p> <p>そうは思わない 0.0%</p> <p>全くそうは思わない 0.0%</p>	31.7%	
そう思う	24		58.5%	
どちらともいえない	4		9.8%	
そうは思わない	0		0.0%	
全くそうは思わない	0		0.0%	41
(8) この授業に対するあなたの満足度はどの程度でしたか				
満足	21	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%</p> <p>満足 51.2%</p> <p>やや満足 36.6%</p> <p>どちらともいえない 9.8%</p> <p>やや不満 2.4%</p> <p>不満 0.0%</p>	51.2%	
やや満足	15		36.6%	
どちらともいえない	4		9.8%	
やや不満	1		2.4%	
不満	0		0.0%	41

【研究科の総評】

回答率は前年度の 80.0%から同水準の 78.8%であった。2 年前の 100%は下回るものの、アンケートの趣旨に対する理解の浸透が進んでいる。なお改善の余地があることを研究科全体で共有する必要がある。

授業に対する学生自身の満足の様子は、最も高い評価の“満足”が昨年の 90.0%から 51.2%に減少し、“やや満足”が 10.0%から 36.6%に増加した。肯定的な回答が 9 割近くを占めているが、昨年は皆無だった“どちらともいえない”が 9.8%、“やや不満”が 2.4%に増加した。おおむね良好と評価できるが、経験豊かな社会人経験者が増加した本年度は、大学院授業により高度な内容を求める傾向がうかがえる。

予習時間について各年の最も多い回答をみると、2021 年：1 時間以上 2 時間未満、および、30 分以上 1 時間未満各 37.5%、2022 年：30 分以上 1 時間未満 52.9%、2023 年：30 分未満 62.5%、2024 年：2 時間以上 3 時間未満 40.0%から、2025 年は 30 分以上 1 時間未満の 43.9%が最多を占めた。年によって変動が大きいことがうかがえる。前年との比較では最多項目は 2 段階の減少が見られ、昨年は 50%を占めた 2 時間以上が 0%となる一方、ほとんどしなかったが 0%から 9.8%に増加した。昼間働き、夕刻以降の授業に参加する社会人大学院生の増加を反映していると思料するが、予習の取り組みの差異が授業の品質確保に影響する可能性が否定できないことから、事前学修方法を工夫し、わかりやすく提示する必要がある。

復習時間について同様に比較すると、2021 年：1 時間以上 2 時間未満 75.0%、2022 年：1 時間以上 2 時間未満 35.3%、2023 年：1 時間以上 2 時間未満、および、30 分未満各 37.5%、2024 年：1 時間以上 2 時間未満 30.0%から、2025 年は 30 分以上 1 時間未満が最多の 35.0%となった。復習についても最多項目で対前年で 1 段階の減少し、ほとんどしなかったが 0%から 15.0%に増加した。予習、復習ともに取り組みが十分とは言えない学生がいる可能性も否定できないことから、授業への取り組み全般について事前の周知、および、各授業における徹底を敢行する必要がある。

教員による目的・目標の説明、教員の説明の分かりやすさは、2024 年は、ともに 75.0%が“強くそう思う”と回答したが、2025 年度はともに 36.6%に減少した。また、“強くそう思う”との回答は、教員の授業に対する意欲・熱意では 80.0%から 31.7%に、質問への対応の適切さでは 90.0%から 41.5%に減少した。他方、“そうは思わない”“全くそうは思わない”少数であり、改善の余地はあるものの、教員の取組みはおおむね適切なものであると受け取っている。

授業を受け研究に対する意欲が増したかについては、授業が学問的な問いを深掘りする視点と影響力を有していたかを評価するもので、質問項目の中でも最も重要な質問の一つである。この質問について、前年の“強くそう思う”90.0%“そう思う”10.0%から、31.7%、58.5%となった。対前年では評価の低下がみられるが、学問的な問いを深掘りする観点からもおおむね適切に授業運営されていると評価する。

本件アンケートの対象学生は主として 2025 年度入学の 1 年次生であるが、学生数がこれまでよりも多いこと、および、入学までの背景が多様で、意欲、専門知識、語学力などが様々であったこと、社会人大学院生においては知識水準と要求水準が高い半面、授業外での学修時間に制約があることなどから、学生の実情に合わせた授業運営を行うことが容易ではなかったことが反映された側面もあると考える。2025 年度は対前年でみると評価が下がった点も少なくなかったが、多様な学生を受け入れることに加えて、不動産に係る社会課題

の拡大や不動産実務の進化を背景に、大学院教育に求められる内容も変化していることを改めて確認する機会となった。大学院教育も深化する必要があると真摯に受け止め、多様な背景と資質を持つ学生が大学院の授業を通じて成長するためには引き続き、教員と学生の協働が不可欠と考えている。

不動産学研究科長 中城 康彦

【学生向けコメント】

不動産研究方法論
授業評価アンケートへの回答ありがとうございました。おおむね、好意的な評価となっていました。都市建築学、経済学、法学と系統によって話を分けていますが、どれかが自分の分野でそれ以外は異分野ととらえないようにしてもらえたらいいと思います。不動産分野ではどれも使うというのが授業の意図です。今後の研究の各段階で、研究方法論で得た作法、手法を活用してください。
不動産数理の基礎演習
授業満足度は概ね高いが、予習・復習時間が十分ではなかったもので、今後はこのような問題点を意識して授業をより工夫することで受講者にとってはもっと有意義な授業になるように頑張りたい。
不動産企画・経営特論
この授業は博士前期課程の中で、不動産学基礎・概論に位置づけられている。授業で用いた教科書は不動産企画・経営特論の授業で利用することを念頭に著したもので、「一歩踏み出す 5 原則」は不動産学研究科以外では学修しない切り口であるとともに、不動産学の展開の可能性を示している。具体的な土地で展開する賃貸事務所の企画経営（経営基本構想、賃貸事業収支計画、投資分析）では時間・空間・不動産の関係を重層的に学修した。 今後の都市再生で不可避となる敷地の一体化や地下や空間の一部利用・一時利用に対応する知見を修得することを念頭に作成した共同ビルの権利変換では、不動産に占める土地と建物、権利と価値について複合的に整理した。 この授業で学修した知見やスキルをもとに、前期課程の各専門科目、および、特別演習（I～IV）の学修や研究を有機的に関連付け、悔いのない大学院生活を過ごしてほしい。
不動産公法特論
授業評価アンケートにご協力いただいた受講生の皆さん、回答ありがとうございました。また、前向きなコメントは教員の励みにもなります。今年度の授業では、報告資料の作成や議論において、積極的な取り組みがありました。みなさんのご意見を参考に、今後とも、より良い講義にしていきたいと考えています。
建築計画特論
今回の授業では、現実に生じているマンション問題について深い議論ができたと考えています。ここでの知見が、みなさんの研究の何らかのヒントになれば幸いです。授業運営にご協力いただき、まことにありがとうございました。
不動産取引法特論
高く評価していただき、ありがとうございます。ただ、解答率が 50%だったので、今後はアンケートに協力してください。
都市空間マネジメント特論
この講義では、過去事例や関連データから都市空間のあり方、マネジメント方法を整理、学ぶとともに、身近な都市空間を実際に見学し、そのあり方をまとめる演習的な要素を取り入れ、能動的に理解を深める授業運営を意識しています。今年度は履修人数も多く、多様なテーマ設定、それぞれに応じた調査が発表会で報告され、充実したものになりました。授業をきっかけに今後の研究につながる視点をみつけてもらえれば嬉しいです。

【学生向けコメント】

不動産会計特論

この講義では、過去事例や関連データから都市空間のあり方、マネジメント方法を整理、学ぶとともに、身近な都市空間を実際に見学し、そのあり方をまとめる演習的な要素を取り入れ、能動的に理解を深める授業運営を意識しています。

今年度は履修人数も多く、多様なテーマ設定、それぞれに応じた調査が発表会で報告され、充実したものになりました。授業をきっかけに今後の研究につながる視点をみつけてもらえれば嬉しいです。